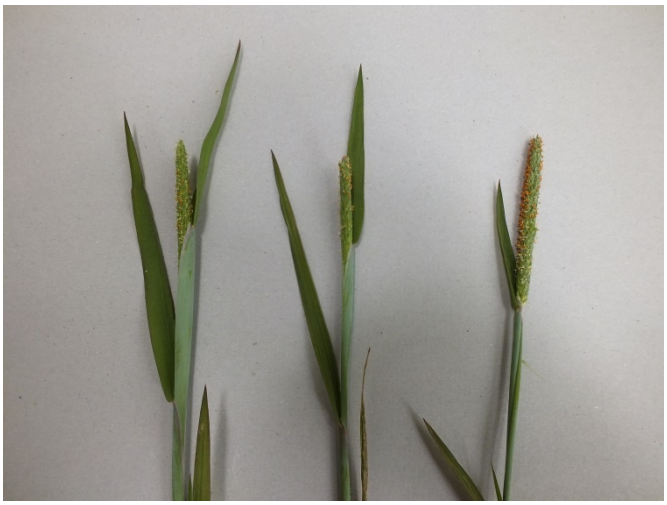
イネ科通信 32

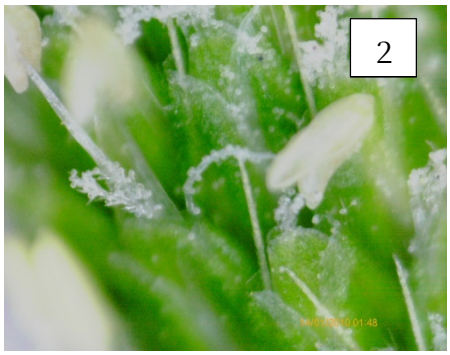
スズメノテッポウ

2014/05/10

スズメノテッポウは春に咲くイネ科の花です。花の特徴は稈（茎）先に円柱状 の細長い穂を出します。雄蕊の葯は開花直後には白く、その後すぐ黄褐色 となります。春耕前の水田などの湿地に生息する一年草です。

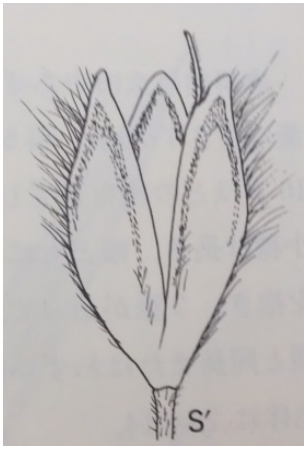


上図左は春耕前の水田のスズメノテッポウ、上図右は葉鞘から現れた花序、左から右へ成長します。



（図１）葯が多数みられます。　（図２）葯から飛び出した花粉が見えます。（2 図）（図３）芒が見えます。

●花期は４～５月で小穂は扁平で 1 小花からなり、左右の包頴は基部で僅かに合生して中央脈（竜骨）上に長い軟毛が密生しています。護頴は内側に巻き込み下方のへり 1/3 以上が左右合生、中央脈はその基部近くから芒となって小穂外に突き出しています。　●下 2 枚の写真は小穂です。細かいところが見えないのでその右側へ



日本イネ科図譜（長田武正著・平凡社）よりスケッチを載せました（引用）。

なお、小穂の長さは3~3.5mmです。